

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	60%	自校A B層の割合	55%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	51%	自校A B層の割合	46%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究に全教員が積極的に取り組み、「児童が自らの知識や経験を活用しながら課題を解決する」授業を実践する。 若手教員を対象としたOJTを充実させ、学校全体で指導力向上を図る。 ICT機器を積極的に活用し、児童の学び合いを重視した授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校、算数科において習熟度別指導を取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を行う。また、東京ベーシックドリルの診断テスト及び学力定着度調査を年間3回実施し定着度を測り、指導の改善を図る。 3年生以上の理科、社会、国語、体育において教科担任制を実施し、より専門性の高い指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学年×10分+10分」の家庭学習に取り組むことを目指す「家庭学習キャンペーン」を1回12日間、年間3回実施する。 「学習のきまり」、「SNSルール」の指導を徹底し、学習に向かう基本的な態度を身に付けさせる。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 会議や業務の精選を図り、放課後に教材研究に取り組める時間を確保する。 児童が話し合いの中で、自信をもって発言できるように、個別に自分の考えをもたせる支援をする。 1時間の中で、全員が自信をもって答えられる問題・発問を必ず用意し、自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 診断テスト及び学力定着度調査の結果を踏まえ、個に応じた練習課題に取り組ませる。また、下位50%の児童を、放課後補習教室へ繋げ、算数の基礎基本定着をサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルパークを1日決められた問題数解き、ポイントをためる取り組みを、家庭と協力して実施する。 過年度の問題や読書など、無理なく取り組める課題を児童の実態に合わせて提示する。
成果指標	・全国学力調査 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」 肯定的な回答 80%以上	・東京ベーシックドリルの診断テスト及び学力定着度調査1月実施7割達成者 70%以上	・家庭学習キャンペーン 3学期実施 自己の目標達成者 90%以上